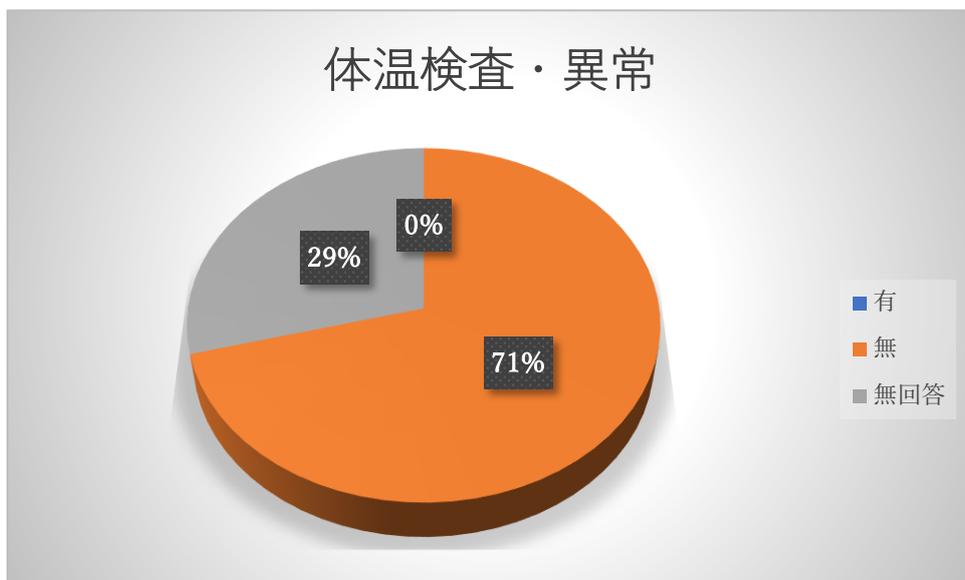
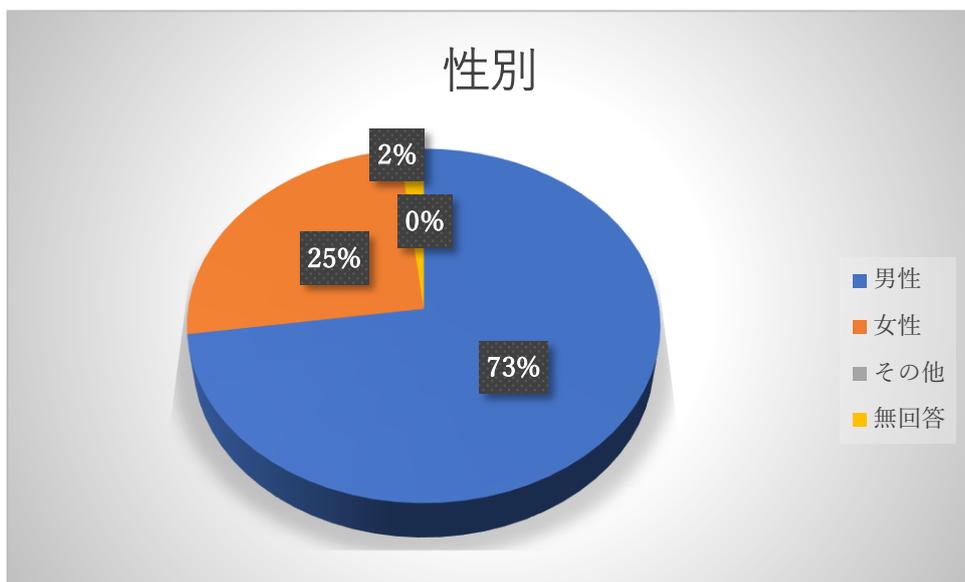


※次のデータはサービスを利用したランナー55名のカルテ票およびアンケート票により数値化したものである。

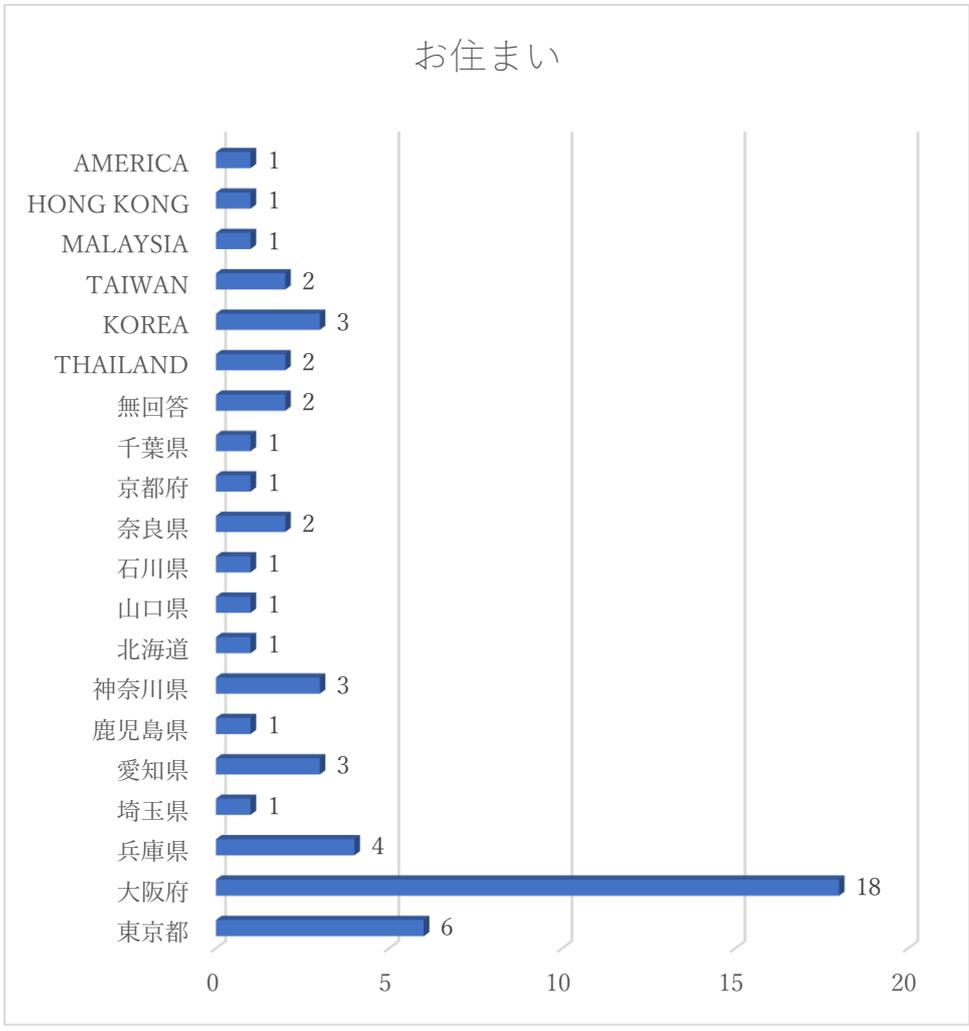
問診票の分析 N=55



結果：体温検査による異常(37.5℃以上)は「有」は0%であった。

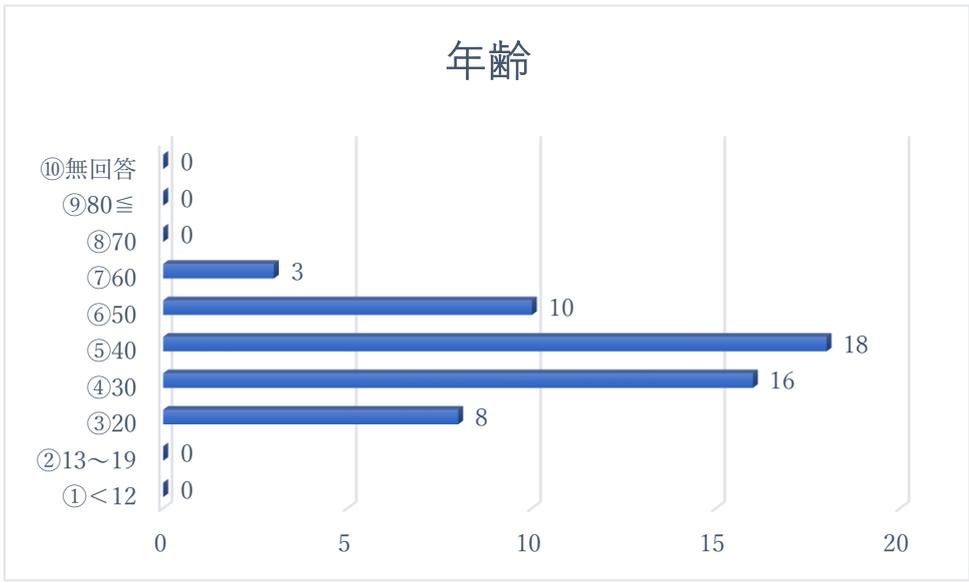


結果：男性の利用の回答は最も多く40名で、全体の73%であった。



Graph③

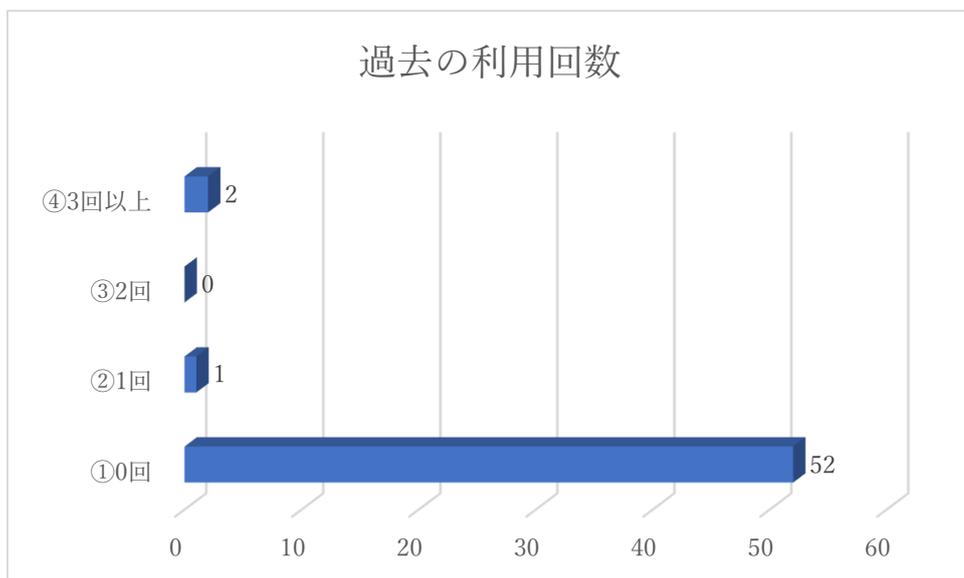
結果：大阪府民の回答は最も多く 18 名で、全体の 32.7%であった。



Graph④

結果：「⑤40 歳代」の回答は最も多く 18 名で、全体の 32.7%であった。

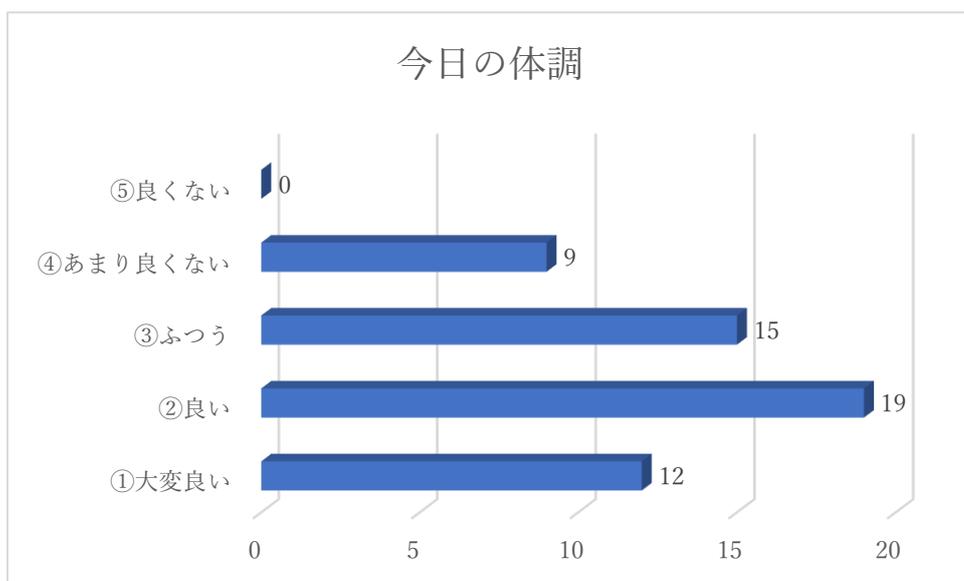
### 過去の利用回数



Graph⑤

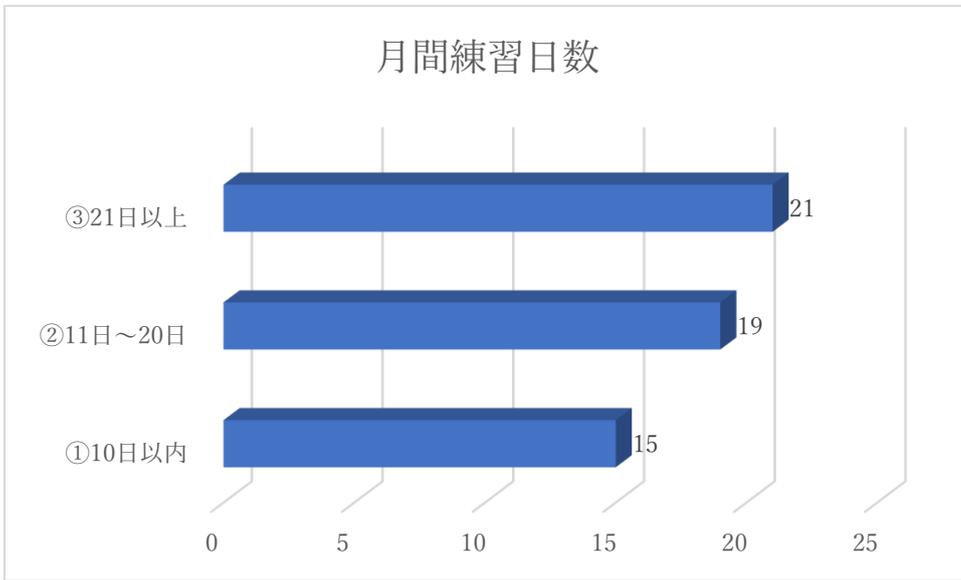
結果：初めての利用の「①0回」の回答は最も多く 52 名で、全体の 94.5%であった。

### 今日の体調



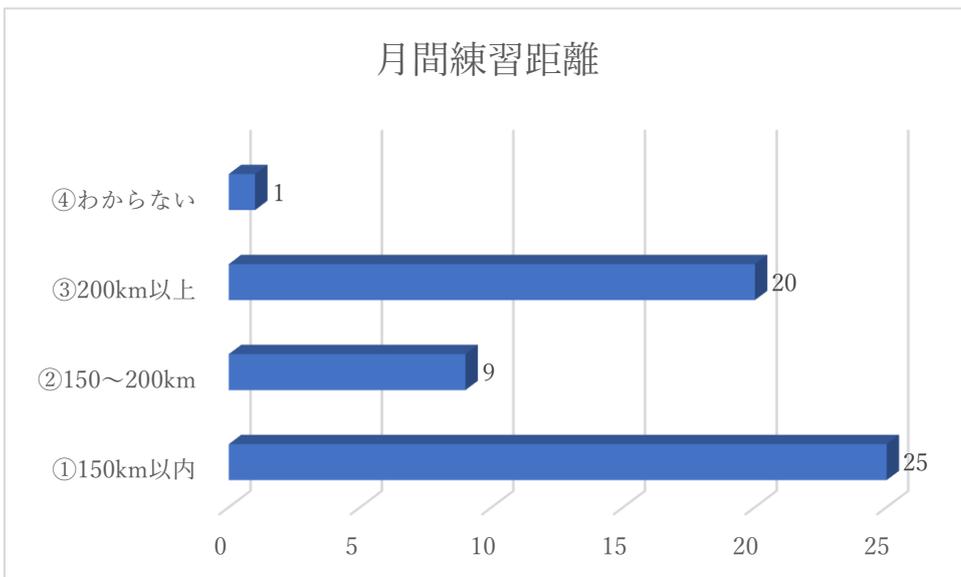
Graph⑥

結果：「②良い」の回答は最も多く 19 名で、全体の 34.5%であった。



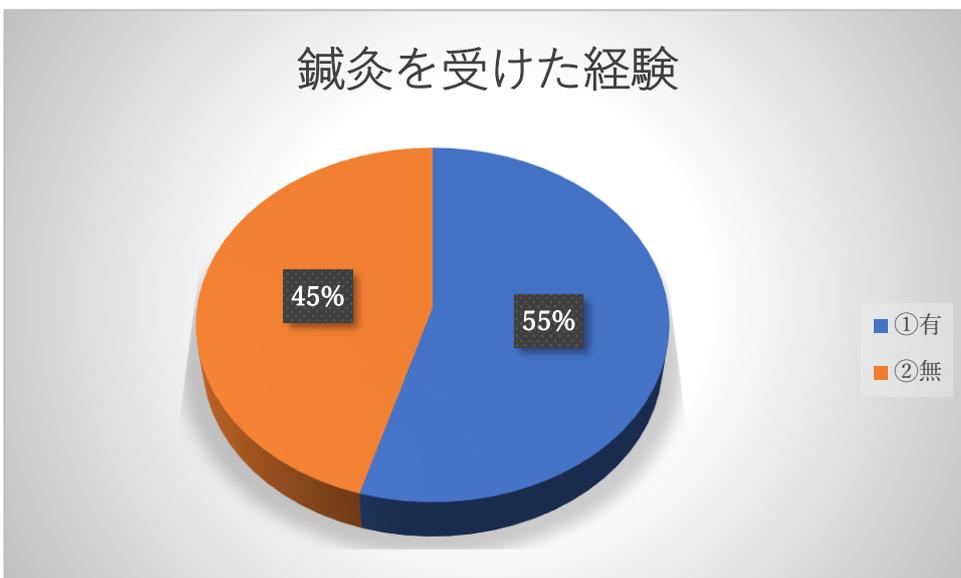
Graph⑦

結果：「③21日以上」の回答は最も多く21名で、全体の38.2%であった



Graph⑧

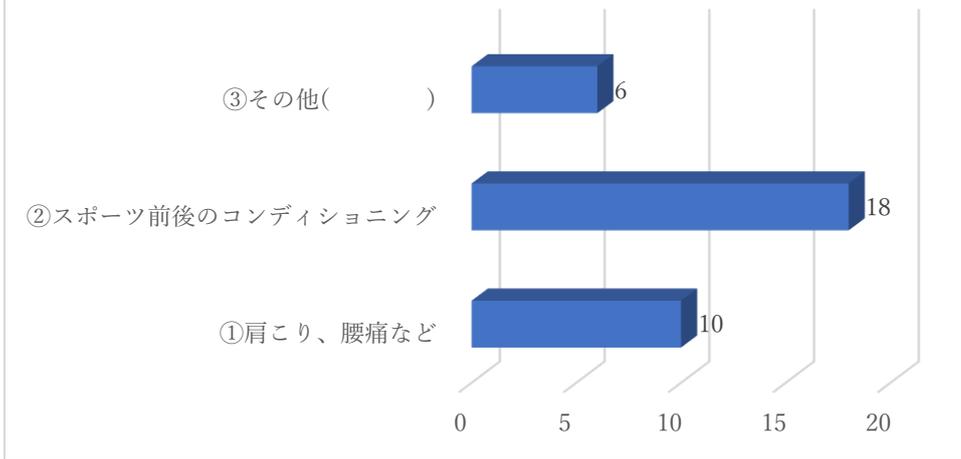
結果：「①150 km以下」の回答は最も多く25名で、全体の45.5%であった。



Graph⑨

結果：「①有」の回答は最も多く30名で、全体の54.5%であった。

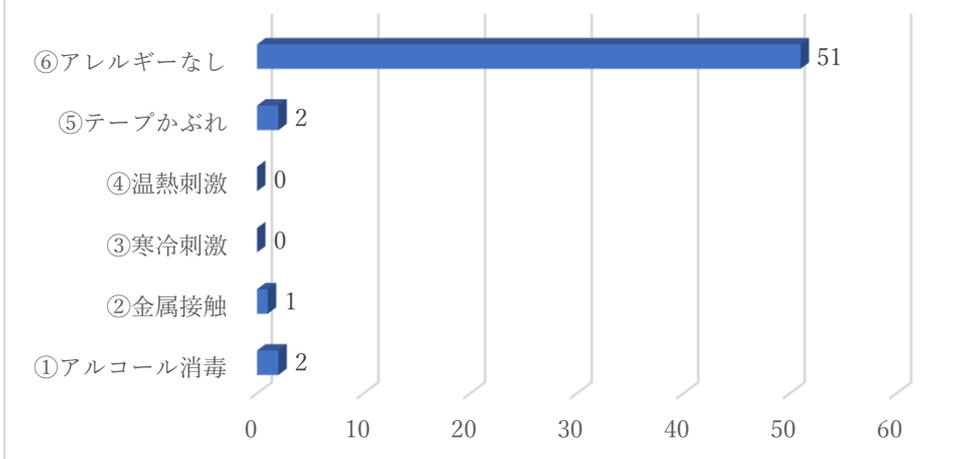
### 前述「①有」の鍼灸を受ける目的



Graph⑪

結果：②スポーツ前後のコンディショニングの回答が最も多く 18 名で、全体の 52.9%であった。

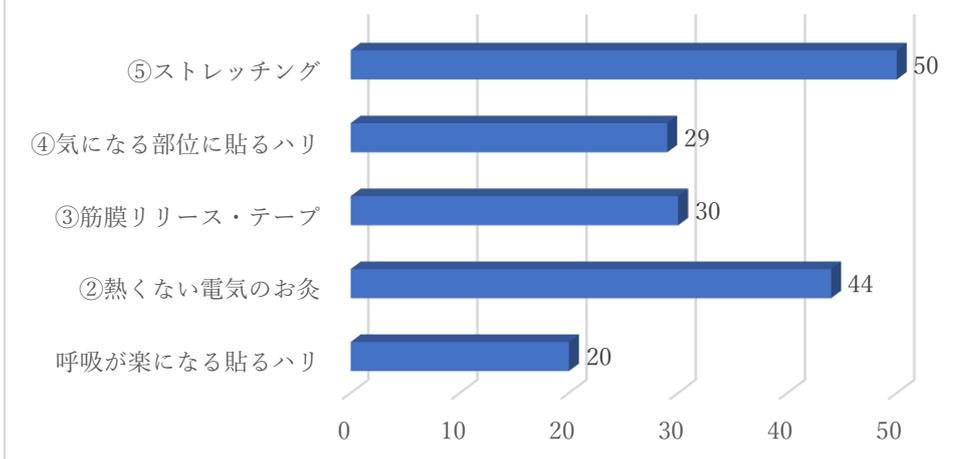
### アレルギー反応の有無



Graph⑫

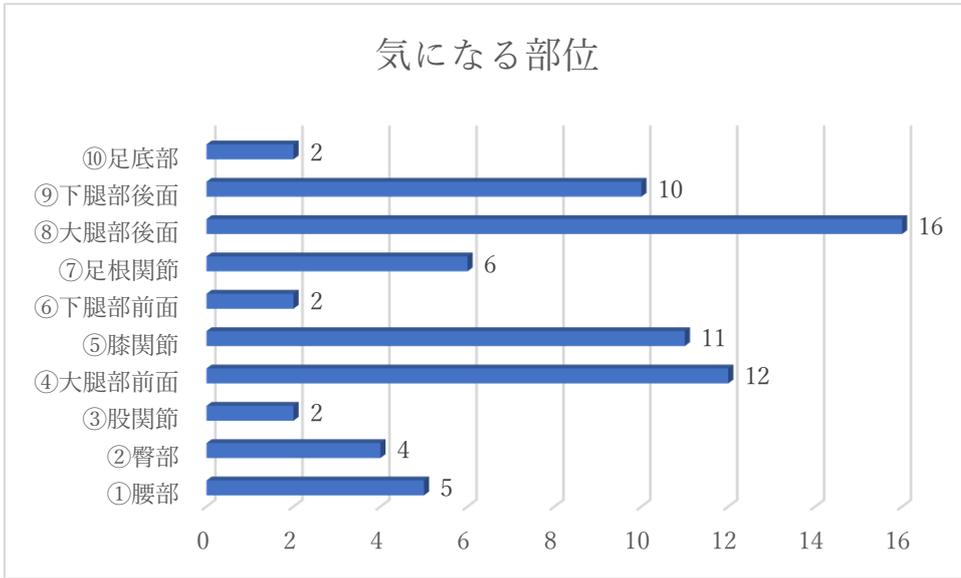
結果：「⑥アレルギーなし」の回答は最も多く 51 名で、全体の 92.7%であった。(複数回答あり)

### 試したいサービス



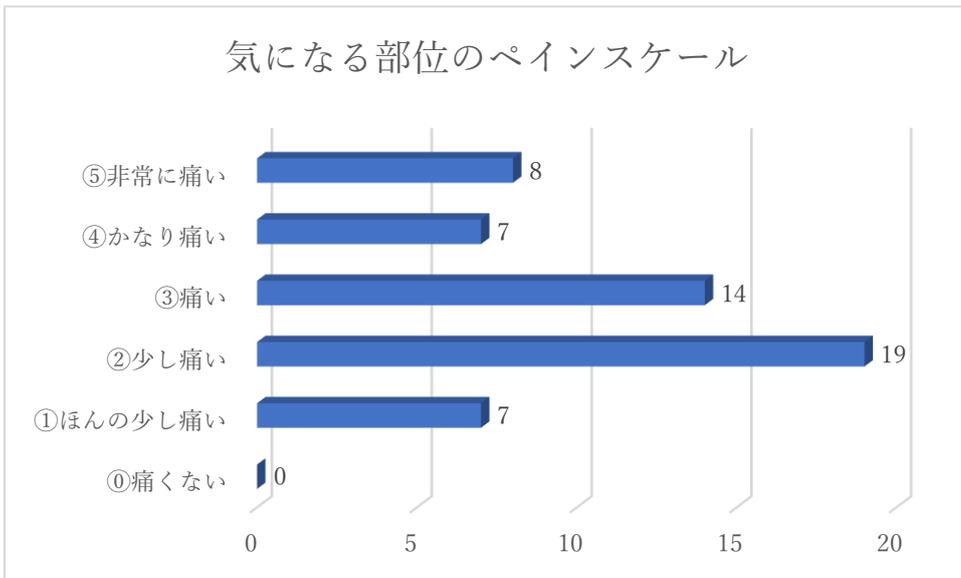
Graph⑬

結果：「①ストレッチング」の回答は最も多く 50 名で、全体の 90.9%であった。(複数回答あり)



Graph⑭

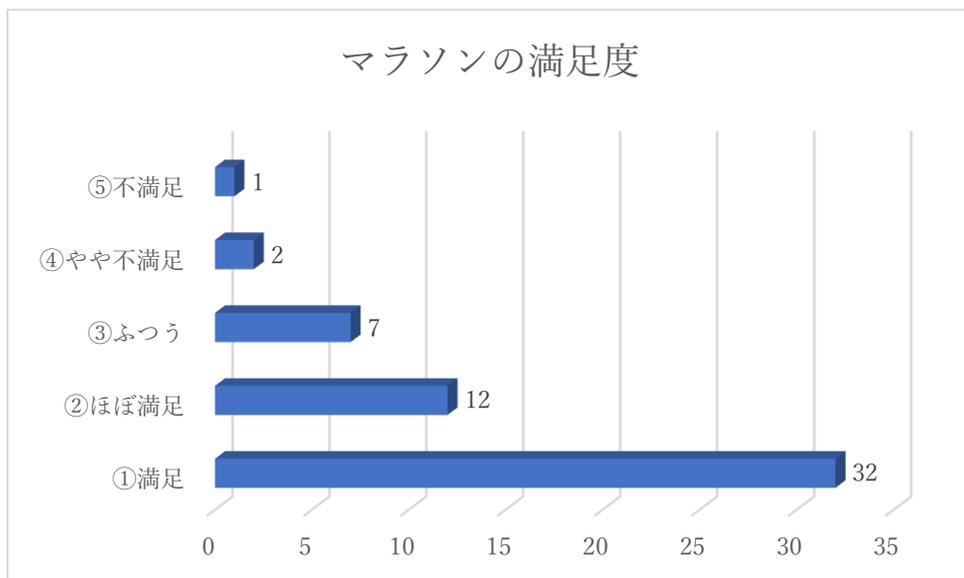
結果：「⑧下腿部後面」の回答は最も多く 16 名で、全体の 29.1%であった。(複数回答あり)



Graph⑮

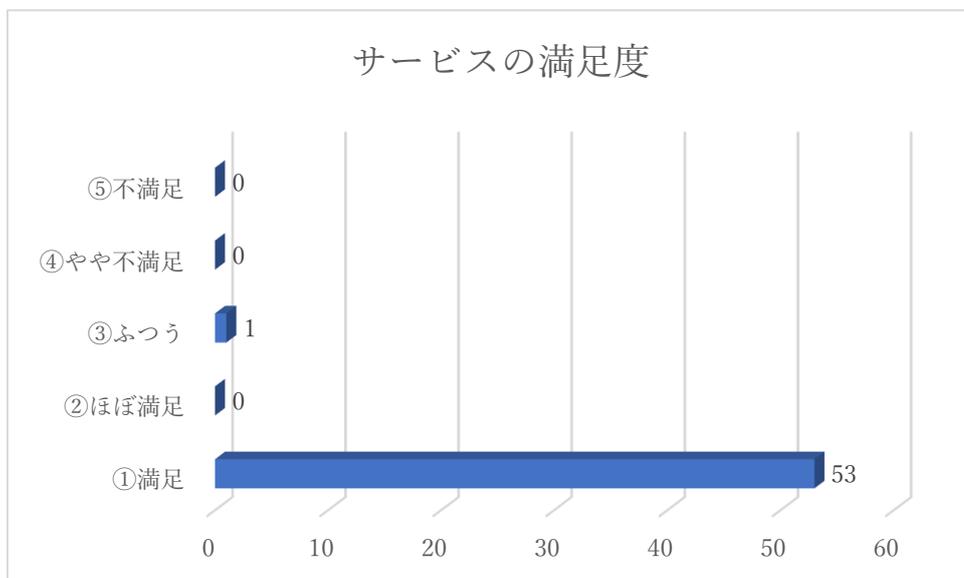
結果：「②少し痛い」の回答は最も多く 19 名で、全体の 34.5%であった。

アンケート票の分析 N=54(1名タイムアウトにより無回答)



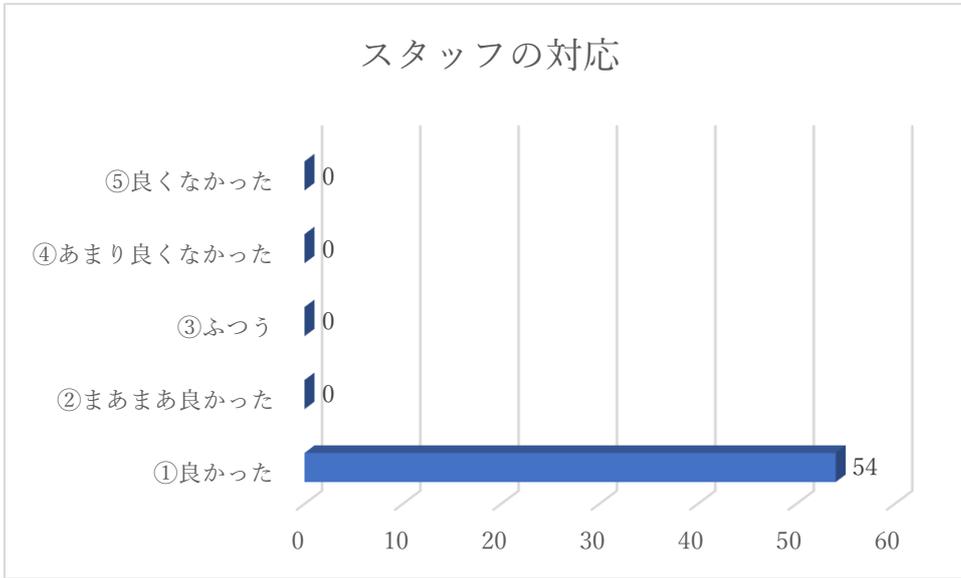
Graph⑩

結果：「①満足」の回答が最も多く32名で、全体の58.2%であった。



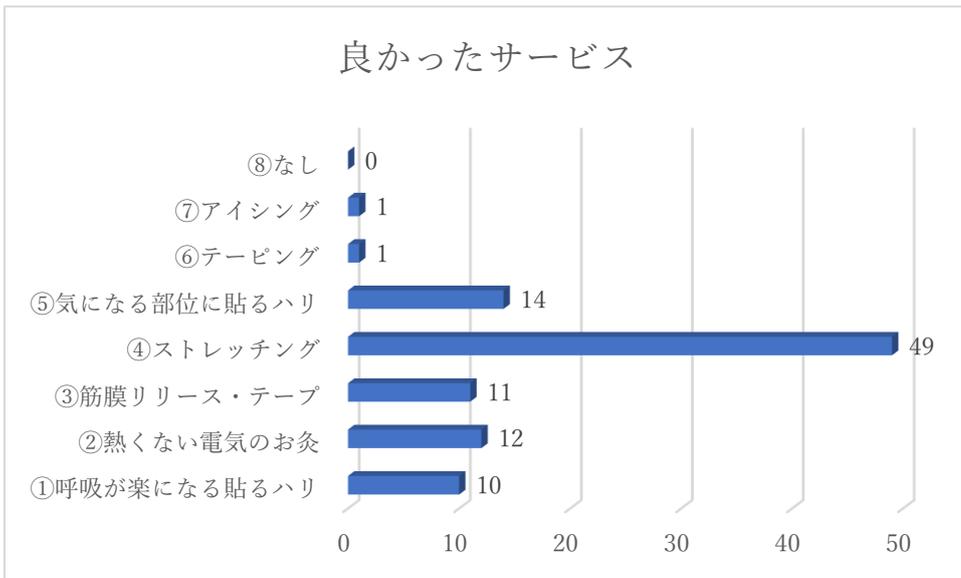
Graph⑪

結果：「①満足」の回答が最も多く53名で、全体の98.1%であった。



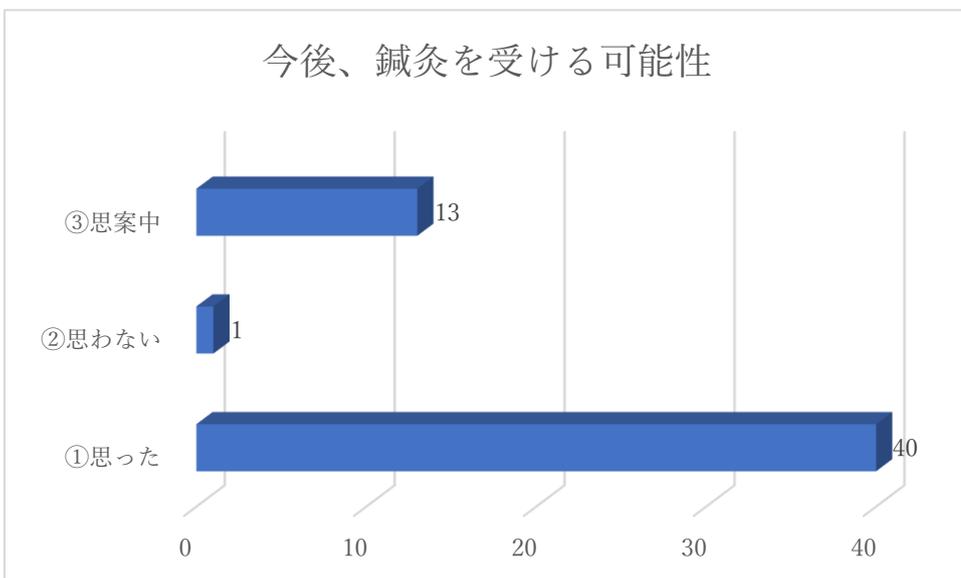
Graph⑱

結果：「①良かった」の回答は最も多く 54 名で、100%であった。



Graph⑲

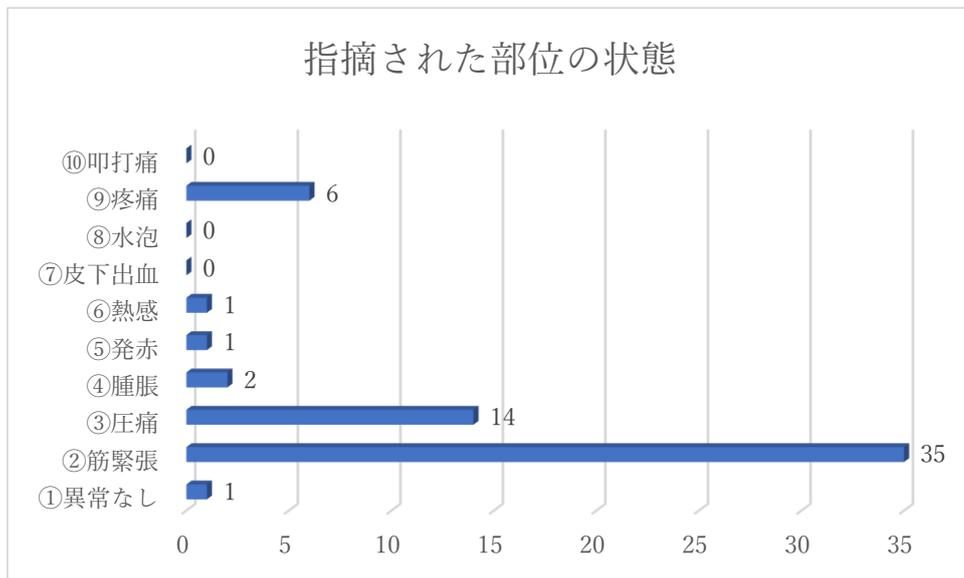
結果：「④ストレッチング」の回答は最も多く 49 名で、全体の 90.7%であった。(複数回答あり)



Graph⑳

結果：「①思った」の回答は最も多く 40 名で、全体の 74.1%であった。

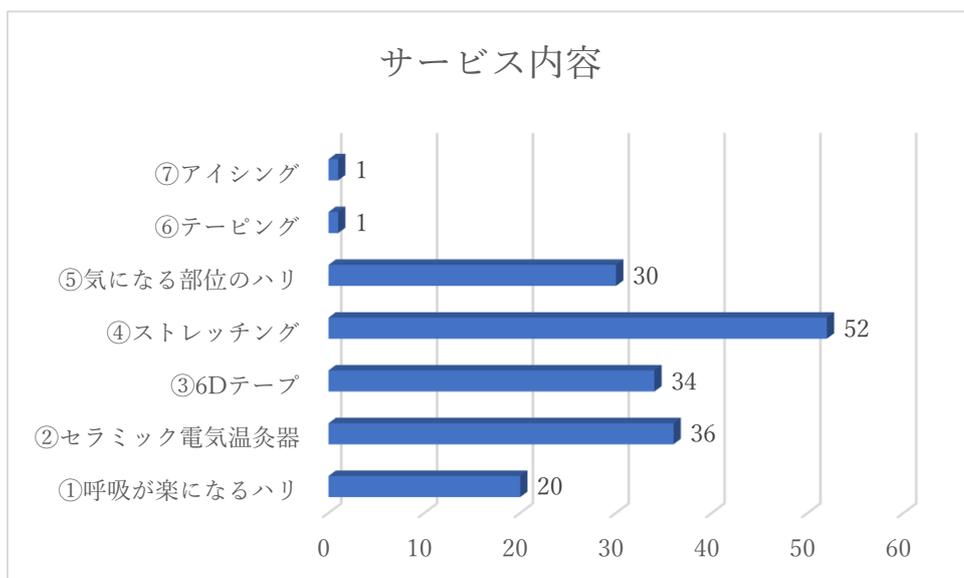
### 指摘された部位の状態



Graph②①

結果：「②筋緊張」の回答は最も多く 35 名で、全体の 64.8%であった。(複数回答あり)

### サービス内容



Graph②②

結果：「④ストレッチング」の回答が最も多く 52 名で、全体の 94.5%であった。(複数回答あり)

### 無償提供備品利用枚数

#### ランナーに貼付した枚数

呼吸が楽になるハリ(パイオネックスゼロ) 40 枚

筋膜リリース・テープ(6Dテープ) 68 枚

気になる部位のハリ(パイオネックスゼロ) 105 枚

#### ランナーに対して備品の理解度を深める目的として会員・準会員・英会話講師(31名)に貼付した枚数

呼吸が楽になるハリ(パイオネックスゼロ) 62 枚

筋膜リリース・テープ(6Dテープ) 62 枚

## 【考察】

スポーツ鍼灸プロジェクト委員会では、スポーツ鍼灸ボランティア活動を行うにあたって、「学生と準会員の問診力の向上」を目標に掲げて事前研修会を実施しています。事前研修会の必要性を裏付ける為に、ランナーが記述したアンケート票を集計・分析したところ、サービス満足度「①満足」の回答は98.1%(Graph⑰参照)、スタッフの対応「①良かった」の回答は100%(Graph⑱参照)となっており、目標が達成できたといえます。

活動を行う場合にあたっては「準備：実践=9：1」の割合で準備が重要であり、治療を行う場合にあっても「問診：施術=9：1」の割合で問診が重要であるという考え方が学生・準会員に浸透してきた結果ともいえます。

気温が低く小雨の降りしきるレースでの活動はほぼ皆無にもかかわらず、低体温症のランナーの対応に追われた場面でも、迅速で適切な処置をしている姿にチームワークの良さを感じました。

しかし、カイロとリネンは持ち合わせていましたが、「備えあれば患いなし」の言葉通り、温かい飲み物やエマージェンシー・シートなども今後は準備しておく必要があると思いました。

また、ドクターが車いす搬送するまでの間に、剥離骨折(三角靭帯損傷)のランナーの処置(アイシング・テーピング)においても迅速で適切な対応をすることができました。

大阪マラソンでの活動は2019年以來であり、この5年もの間、大阪マラソン組織委員会事務局との相互伝達を図っていただいた普及啓発委員会委員長三宅なつえ先生。

備品の無償提供を快く引き受けてくださったセイリン株式会社島田侑弥様(パイオネックスゼロ)。株式会社エスジーティ松村豊様(6Dテープ)。

活動を共にした学生・準会員・会員の皆様。

この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

スポーツ鍼灸プロジェクト委員会  
委員長 若杉昌司